

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人 グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホーム グリーンピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 20 日	評価結果市町村提出日	平成22年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2471300422&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 8 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を緑に囲まれ、広々とした環境の中、畑での野菜作りやプランターの花植えなど、土に親しみながら季節感を感じてもらえるよう努めている。
法人の理念とし、特に、「笑顔・あいさつ・言葉づかい」に心がけ、また、グループホーム独自の理念として「ゆっくり”一緒に”楽しく”その人らしく”入居者の訴えや思いを充分聞き、一人ひとりのペースに合わせて支援することで安心した生活ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自家菜園等緑豊かで広大な敷地内の中に、母体の法人が運営する『特別養護老人ホーム』『通所介護』『ケアハウス』『地域交流ホール』等、在宅複合施設として多種の事業所や施設があり、それら事業所との交流と医療面を含め利用者の状態変化に合わせた多様なサービスが受けられる素晴らしい事業所である。又、理事長はじめ介護の現場経験が豊富で、利用者並びにスタッフに全幅の信頼がある管理者、主任、ケアマネの下、どんなに老いても障害をもっている利用者個々に輝く人生を過ごして頂くため、尊厳の念を忘れず何時も笑顔で利用者のペースに合わせた支援がされており、利用者が安心して暮らしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として「“ゆっくり”“一緒に”“楽しく”その人らしく」生活が継続できるようなサービスに心がけている。また、理念を職員が常に目に入る位置に掲示し、理念の実践に取り組む努力をしている。	母体である法人グループの『笑顔・あいさつ・言葉づかい』の理念の基、スタッフ皆で話し合い事業所独自で「ゆっくり・一緒に・楽しく・その人らしく生活が継続できるように」をモットーに掲げ、日々の支援に活かすよう努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りや保育所交流会、日々の散歩やボランティア受け入れ等で、地域の方や子供達と触れ合う機会を作っている。	地域公民館の夏祭りに参加、地域のボランティアの方々等を招きグループの事業所や施設と合同での夏祭りの開催、地域交流ホールでの介護教室等地域との付き合いを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れをしている。また、グループホームや認知症ケアについて説明や見学してもらっている。施設では、地域介護相談所として介護教室を開催したり、講師を招き、認知症の研修会を開催し、地域の方に参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、利用者家族、地域住民、市の職員で構成されている。開催時には、情報交換の場として、また、立場のちがう出席者の方々に意見やアドバイス等を貰いサービスの向上につなげている。	運営推進会議の必要性はよく理解されている。会議では事業所の実態を詳しく報告され、出席者から活発な意見交換がされ有意義な会議となっているが、開催は年1~2回の開催となっている。	会議の開催はメンバー全員の参加を前提に考えられ年1~2回の開催となっているが、身近なテーマ毎に少人数の会議も含め、年6回程度開催され、利用者サービスの向上に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、委員として行政からのアドバイスもらっている。2ヶ月に1度介護相談員の来所があり、報告書をもとにサービスの質の向上につなげている。	法人グループの本部で市が主催する会議や研修会に参加、運営上の課題や相談事や報告事項、提出書類も本部で一括して行い常に連携しているが、事業所独自で市との交流はされていない。	法人グループとして本部での市との連携に併せて、事業所(グループホーム)独自の細かな課題や相談ごと等についても協力関係を築かれことが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を設置し施設内研修を実施し、学んだことを全員で共有し理解を深めている。また、意識を高め、実践に役立っている。	身体拘束廃止、虐待防止については事業所内外の研修に参加され、スタッフ全員身体拘束の弊害はよく理解され共有されている。玄関も見守りを充実し、出来る限り施錠しないケアに取り組めるように話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、会議やミーティングで話し合う機会を作り虐待のない生活を支援している。また、委員会を設け、その中でテーマをあげ、他部署と情報交換したり、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、今後に備えて研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、文書とともに十分な説明を行い、要望や意見、疑問点等はないかを充分聞き、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設全体で苦情対策委員会を立ち上げ、些細なことでも報告し改善する体制を取っている。また、2ヶ月に1度介護相談員の来所があり、利用者の様子や意見等相談にのってもらい、サービスの向上に努めている。	日頃から何でも気軽に話し合える雰囲気づくりに心がけ、家族の面会時や運営推進会議に意見や要望を聞き出し、又、介護相談員のアドバイス受け、出された意見、要望はスタッフで話し合いケアの向上等に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の引き継ぎやミーティングなどをおし、職員の意見を聞き、委員会の中で処遇改善を話し合い運営に反映させている。	主任は常にケアの現場にいてスタッフとのコミュニケーションに心がけ、朝夕の申し送りやミーティング、ケアの場で意見を聞き入れ、管理者も同席しスタッフみんなと話し合いのうえケアの向上等に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得により給与に反映させている。また、労働時間短縮推進委員会、安全衛生委員会等を設置し就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修には全員が参加するように勧められている。外部の研修には計画的に参加するように勧められている。研修後は、全職員が研修報告として記録等から学ぶようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	21世紀委員会やグループホーム連絡協議会に参加し、研修や発表、交流の機会を持ち、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や申請時には十分な話し合いに応じている。また、利用者によっては通所で利用してもらい、本人の不安を軽減し、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学してもらったり、相談や申請時には十分な話し合いに応じ、信頼関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で分析し、優先すべき課題を見極め他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの家族と考え、その人に応じた役割分担があり、みんなで支え合い生活している。人生の先輩として生活を共にするうち自然に家族のような関係が築かれ日々の生活の中で学ぶことは多いので、一人ひとりから聞いたり、教えてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会など機会があるたびに本人の様子を伝えたり、家族から意見や協力できることを聞くなど日頃から家族との対話の心がけ、本人の状態を共有し家族とともに支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪し易い環境づくりに努めている。また、家族の協力を得て馴染みの場所等に外出する機会を設けている。	敷地内の法人グループの事業所との交流から馴染みの関係ができ、日々交流するのが楽しみとなっている。又、家族の協力を得ながらお墓参りや自宅への送迎等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を充分把握したうえで、話を傾聴し、人間関係がスムーズにいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や性格、思いを本人や家族の話の中から聞き取るようにする。また、普段の日常生活の中において、本人の言動から本人の思いを察知するように努め、情報を職員間で共有し様々な角度から把握し、尊重するように努めている。	長年の生活歴をベースに、日々一緒に生活するなかで利用者個々に寄り添い何気なく聞き出すことと、言葉だけではなくその日の体調や表情から思いや意向の把握に努め、日々の生活に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴など本人や家族から聞き取り、また他事業所からの情報も得て、一人ひとりの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日身体面や精神面の引き継ぎを行い、現状の把握に努めている。モニタリングやアセスメントを通して計画・実施・評価を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現況を家族に伝え、課題やケアのあり方について話し合っている。カンファレンスを行うことで本人にとってより良い介護方法を検討している。また、サービス計画書の作成時には、職員全員の意見を聞き、計画作成担当者が作成している。	本人、家族の希望と3ヶ月毎のモニタリングをベースに、関係者(医師、看護師、介護スタッフ等)の意見やアイデアをまとめ、利用者毎の担当者が原案をつくりスタッフみんなで話し合いのうえ、定期的な見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・バイタルチェック等身体状況、及び日々の記録を個人記録に記入し、また連絡ノートも併用し、些細なことでも引き継ぎ出来るようにし、職員間で情報の共有と現状の把握に努め、個別ケアの充実を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの要望に応じた支援をし、その人らしい柔軟な対応をしている。また、地域介護相談所として、地域の人の相談の窓口になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方に来てもらい防災・避難訓練を実施したり、園芸・散髪等のボランティアの協力も得ている。また、地域の方や民生委員の見学や来訪もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師、主治医、各診療科目での協力医療機関との連携を取りながら日常の健康管理を行っている。医療機関の受診時には、家族に同行してもらうこともある。	本人と家族の希望で、利用者全員協力医がかかりつけ医となっている。月1回協力医による定期的な往診、緊急時には併設の特養等グループ事業所の看護師の24時間対応と協力医の往診が可能であり、適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と連携を取り、朝昼バイタルチェック等を行い、日常の健康管理、服薬管理、緊急時対応、介護相談の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、協力医療機関または医療機関と連携を取り、情報交換や相談を行い、入退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を尊重しながら話し合っている。また、看取りの指針を定め全員で共有し、主治医・看護師・協力医療機関と連携をとりながら支援している。	事業所としては、協力医やグループ事業所、施設看護師との連携による医療面の協力により、看取り指針を作成し、利用者の心身の状態を見ながらその都度医師、看護師、家族、スタッフと話し合い、又、家族の協力を得て重度化や終末期の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受けたり、看護師から指示・指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来てもらい、年2回防災・避難訓練を実施している。	消防署の指導の下、敷地内のグループ事業所、施設と合同で年2回消火器、消火栓の取り扱い訓練と利用者も参加した防災、避難訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した、その方に合った声掛けの仕方を工夫している。また、個人情報の取り扱いには十分気をつけ、同意を得ている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを害しないように、さり気なく笑顔で、むずかしい言葉ではなしに優しい言葉で話しかけるように心がけている。個人情報については個人情報保護規定に基づき適正に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ文字にしたり、ジェスチャーを交えながら説明したり、ハイ、イエなど答えを絞った質問の仕方をして、思いを表現できるように心がけ、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活において基本的な流れはあるが、その時の状況に応じて就寝・起床・食事など臨機応変な対応をして、本人の意向に合わせてその人らしくゆっくりと日常生活が継続できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりにあわせお化粧や整容などの支援をしている。また、施設に毎月散髪ボランティアがきてくれるが、本人の希望やこだわりを大切にしている。時には、家族の支援を得ることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力や意向に合わせて、食事の準備・配膳・片付けなど出来ることを行ってもらう。また、職員も一緒に食事を行い、好みのもの、苦手なものにも気をつけ、食への関心や楽しみを持ってもらっている。	食事作りは業者委託となっているが、定期的(季節毎)に事業所独自で利用者とスタッフが一緒に食事作りする機会を設けている。スタッフも同じ食事を一緒に食べ利用者の好みや希望を聞き食事が楽しめるように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し、不足があれば補助食品等で補うようにしている。食事形態も一人ひとりに合わせ、体調の変化に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の方法は、歯磨き・うがい・口腔用ウェットティッシュの使用、また水分を充分摂るなど、一人ひとりに合わせた方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、排泄パターンを把握し、誘導や介助を行っている。	利用者個々の排泄状況を記録のうえ排泄パターンを把握し、トイレ誘導での自立排泄に取り組まれている。夜間についても各居室にトイレがありハード面でも自立排泄への配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を摂取し易い形態にしたり、水分を充分摂取するようにしている。また、散歩やレクリエーションで体を動かす機会を作っている。必要に応じて医師、看護師の指示で緩下剤等の服用もしている。おむつ使用の方もトイレで排泄できるような支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やペースに合わせて看護師と相談しながら、チェアー浴、シャワー浴、清拭など個々に合った支援をしている。	浴槽は一度に2～3人が入れる檜づくりと、併設の事業所のチェアー浴等が利用でき、入浴の都度看護師の体調チェックに基づき、その日の一人ひとりの体調に合わせた入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ、ゆっくり休息がとれるように声掛けしている。また、居室のベッド以外でも、フロアに長椅子を置いてあるので、好みの場所で休息していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルにとじ、内容について十分理解し、服薬確認・管理は看護師の指示のもと行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意なこと、興味があること、できそうなことを見極めその方の力が発揮できる場面では、声掛けし、参加してもらうようにして、充実感や喜びを味わってもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出活動を実施しているが、一人ひとりの支援には、家族に協力も得ている。	事業所の周辺は緑が多く、天気がよければ事業所周辺の散歩や菜園の手入れ、又、定期的に敷地内のグループ事業所に移動販売車(移動店舗)が来る際買い物に出かける等、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに合わせたお金の管理をしている。自分でお金を持ち、買い物の支払いをすることもできなくなってきた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはもう出来なくなってきた。自ら電話することはなく、かかってくる電話を取り次ぐことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲れた環境にあり、居室や食堂の窓は大きく取ってある為、明るく、居心地の良い空間になっている。音や光の刺激のないように注意を払い、季節感があるものを取り入れ、ゆったりと生活できるよう心掛けている。	リビングは大変広いし天井も高く照明もほど良く居心地よい。南側の窓はガラス張りの大きな窓で、窓越しの景色で季節感が感じられ採光もよく開放的で明るい。テレビの前にはソファが置かれ自由に見られる等好みの場所でくつろげることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広く、和室・フロア・裏庭など自由に過ごすことができる。フロアには、ソファがいくつも置いてあり、それぞれ好みの場所で自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使ってきた家具や馴染みのもの、好みのものを置くなど一人ひとりに合わせた部屋作りをし、安心して、居心地よく生活できるように努めている。	各居室ともトイレが設置されているが異臭もなく掃除が行届き清潔できれいである。利用者と家族が希望する使い慣れた家具やお好みの小物等が自由に持ち込まれており、その人らしく安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、車いすでも生活の場として安全に生活しやすいように心がけている。		